



ヤング・プラハを応援してくださる皆様へ

現地チェコ・プラハから御礼とご報告をさせていただきます。

現在のような世界状況の中、こういう時だから音楽の力で皆で元気になれば！と日本委員会と検討を繰り返し、開催を決定して実行できた今年の本祭は、まるで天国にいらっしゃる故コステツキー会長とスーク会長、チャスラフスカー、ドヴォジャーク両名誉委員に守っていただいているように、全日程スムーズに何事もなく大成功裏に終了できたことをご報告させていただきます。

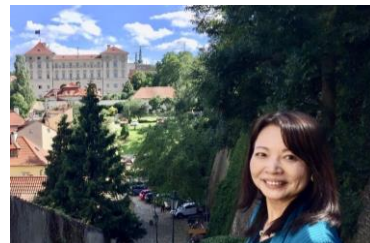
チェコは夏休みが終わった 9 月から、また感染者が急激に増え再度規制がされていく中、オープニングコンサートの会場だったチェコ上院の建物は、私達のコンサート翌日から閉鎖されギリギリセーフという状況の中での、ちょっとドキドキした始まりになりました。それから 22 日のクロージングコンサートまでまっしぐら！！でしたが、現在はまたチェコは緊急事態宣言になってしまい、駆け込みセーフで終了できたことは幸運だったとしか思えません。(チェコではこういう時に 0 時 5 分前だったと表現するのですが、多くの方に今年のヤング・プラハ は 0 時 5 分前に終わったわね・・と言われました^^)

こういう状況なので今年はチェコ以外の国は近隣のハンガリー、ポーランド、ドイツ、オーストリアからのみの参加とし、日本人出演者もチェコ国内又は EU 内ということで候補をあげ出演を依頼させていただきました。ハンガリーとドイツは、チェコから戻った際に PCR 検査（ハンガリーは 5 日間の隔離も）という条件の中で、参加して下さった演奏家の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

今現在はオーストリアとの間も規制ができました。

慈善団体 国際音楽祭ヤング・プラハ

チェコ委員会 フルーティスト フィンダ 志保子



さて、通常はしなくてよい心配も多々ある中始まった第 29 回ヤング・プラハ・・・若い演奏家の熱演とご来場くださるお客様の表情を見てく思い切った良かった！！！！の一言でした。そして、こういう時に音楽祭を実行するということに賛同して下さり、温かく大きなサポートをくださった皆様には、精神的にどんなに助けられたでしょうか・・・あらためて音楽と人の力を強く感じ、感動した幸せな時間をいただきました。

在チェコ日本大使館、ポーランド大使館、チェコ上院、他協賛企業、個人サポーターの皆様をはじめ、日本から応援くださったフレンズの皆様、岩崎会長はじめ日本委員会のメンバーに心より御礼申し上げます。

今年はここでは演奏についてはあえて触れないでおきます。出演者からの感想文と日本委員会の HP で演奏動画をご覧いただけます。これから非常に期待される若い素晴らしい演奏家からのメッセージを皆様それぞれに感じていただけましたら幸いです。

来年は 30 周年記念音楽祭になります。その時までには世の中が落ち着きいつも通りに開催できることを願ってやみません。今後とも国際音楽祭ヤング・プラハ を応援いただけますよう、どうぞよろしくお願い致します。本当は頭の中に書きたいことが溢れているため支離滅裂な文章になりましたが、チェコ実行委員会からのご挨拶とご報告とさせていただきます。最大の感謝を込めて ♪

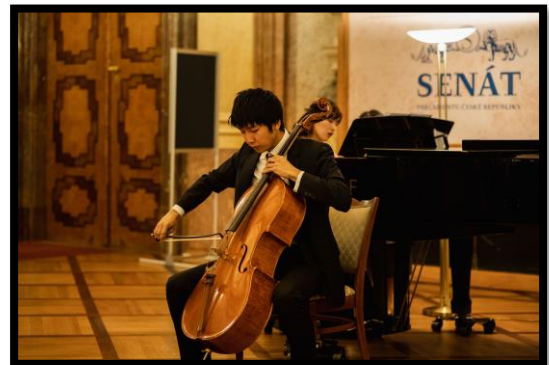
今年は、9月9日から9月22日にわたって、プラハとチェコ各都市等で演奏会が開催されました。



三河 慶史郎 (チェロ) < オープニングコンサート 他に出演 >

2019年7月からチェコに留学・滞在し、「ヤング・プラハ」では毎回、素晴らしい音楽家の演奏を楽しみにしていました。その舞台に、まさか自分が立って演奏できる日が来るとは……。特に、新型コロナウイルス感染症が拡大した影響で、約6か月は演奏会等がなく、部屋で一人練習していた自分にとって、多くの観客の皆様を前にして演奏できたことは大変光栄でしたし、人前で自分の表現をすることがどれほど大切かを再認識しました。

2020年はコロナ禍などで“特別”な年になってしまいましたが、日本とチェコにとっては「友好100周年」の記念すべき年です。そこで、日本とチェコの作曲家を選びました。特に、黛敏郎作曲の『文楽』はとても日本的な音のする無伴奏チェロの現代曲です。初めて聴く方が多かったと思いますが、この曲をチェコという日本との縁が深い国で広められたことを嬉しく思います。ヤング・プラハでの3回の演奏のうち、Rakovník (ラコヴニーク) のシナゴークでのみ演奏した『コル・ニドライ』は、ドイツの作曲家、マックス・ブルッフがユダヤ教の音楽から着想を得て作曲したものです。前半の嘆くような曲調から後半の祈りに転ずるこの曲は、今の状況が少しでも良くなるように祈りな



オープニングコンサート
ワルトシュタイン宮殿ホールにて

が演奏しました。チェコ国内は10月5日から再び緊急事態宣言が発令となるなど、状況によっては演奏会を開催できないことも懸念された中で、たくさんの方々の協力を得て無事に全てのプログラムを終えることができました。演奏させていただいた一人として、このような貴重な機会をいただいたこと、深くお礼申し上げます。

ヤング・プラハで各国から集まった若い才能ある音楽家を共演し交流したことで、数多くのインスピレーションを受けました。彼らと再びどこかで一緒に演奏できるよう、また何度でも皆さんに聴いていただけるよう、演奏家としても人間的にも成長し続けていきたいです。

法岡 真央（ピアノ）＜ オープニングコンサート 他に出演 ＞

この度は、ヤング・ブラハ音楽祭に推薦していただき、誠にありがとうございました。このような世界的に大変な中、演奏する機会をいただけたこと、心より感謝申し上げます。実は3月にチェコで緊急事態宣言が発令された当時、祖母があと余命わずかということで、一時帰国しようか何度も悩んでおりました。ですが、大学院の入試も控えており、自宅が田舎にあるということ、また万が一チェコに戻れなくなった時のこと等を考え、断念せざるを得ませんでした。6月末に入試が無事終わり、あの時に下した決断は果たして本当に正しかったのだろうか、と物思いにふけていた丁度その時に音楽祭のお話をいただいて、間違っていないかったのだ、と確信したことを覚えております。

プログラムを決めるにあたって、ヤナーチェク、ドヴォルザーク等のチェコ出身の作曲家を中心に構成させていただきました。日本で勉強している間はほとんどと言って良いほど触れてこなかった作曲家達でして、特にヤナーチェクの独特な間合い、リズム感等は今後さらに追求していきたいと強く思いました。

9月13日の最後の曲には宗教的な意味を持つ、ブルッフの「コル・ニドライ」を取り上げました。奇しくも演奏させていただいた会場がユダヤ教の礼拝堂ということで、特別な時間



オープニングコンサート
ワルトシュタイン宮殿ホールにて

を共有しているという多幸感、今ここで勉強させていただける喜び、感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。人との距離を保つことが大原則となり、数々のコンサートがネットを通して配信されるようになり、祖国を離れている間にこんなにも時代が変わるものかと驚きましたが、生で音楽を共有するあの感覚は決してネットの媒体では得られないことと思います。そしてこの大変な状況の中、ヤング・ブラハ音楽祭開催にご尽力された関係者の皆様に、重ねて感謝申し上げます。沢山の学びを頂いたこの3日間は生涯の宝物です。これからも更に精進して参りますので、今後ともよろしく願いいたします。

有富 萌々子（ヴィオラ）＜ セントローレンス教会 他 に出演 ＞



コステル ヴァブリネツ
セントローレンス教会にて

この度は、国際音楽祭ヤング・ブラハにて、2つの演奏会に出演させていただきました。このような難しい状況の中、たくさんのお客様の前で演奏できたこと、とても嬉しかったです。

ピアニストのミロスラフ・セケラさんとの共演もとても楽しみにしていたのですが、ピアニストとして本当に素晴らしいサポートをしてくださり、幸せを噛みしめながら演奏いたしました。

ブラームスのヴィオラソナタ1番は、ピアノとの掛け合いも多く、特に難しい曲なのですが、お互いの音を聴き合って、とても良い音楽ができたのではないかと思います。ヴィオラという楽器は、マイナーで、あまりソロで弾く機会が少ない楽器ですが、深くてまろやかな響きのあるヴィオラを、もっと世に広めていけたらと思います。

そしてヴィオラの良さが、今回聴きにに来てくれたお客様の中に1人でも伝わっていたら、とても嬉しいです。演奏会がない日はブラハを観光したり、美味しいご飯を食べながらゆったり過ごしました。ブラハの建物の感じや雰囲気は、ウィーンと結構似ているような気がします。上から景色を見下ろせる場所がたくさんあって、いつ見ても素敵な眺めでした。最後になりますが、とても手厚いサポートをくださったヤング・ブラハのサポーターの皆様と、毎日美味しい朝食と、素敵なお部屋をご用意くださったホストファミリーのご夫妻に感謝の気持ちでいっぱいです。何不自由なく滞在させていただき、又毎日のように得難い経験をたくさんさせていただきました。本当にありがとうございました。皆様にまたお会いできますよう、一層頑張ってウィーンで研鑽を積んで参りたいと思います。

始めに、今回の国際音楽祭ヤング・プラハを無事に終えることが出来たこと大変嬉しく思います。このような素晴らしい演奏の場とたくさんの応援大変ありがとうございます。

今年はご存知の通りコロナの影響で状況が大きく変化し、私たち音楽家としての演奏の場がたくさん失われました。今年の5月に自分はプラハにコンクールを受けに伺う予定でしたが、それも延期となりコロナの自粛期間は演奏家としての自分ではなく芸術家そして一人の人間として、自分自身と一から向き合うきっかけとなりました。

人前での演奏の機会は失われ、次の目標のない演奏会やコンクールに向けてただひたすら一人で練習する日々が続きました。パソコンなどを使って演奏をアップロードしたりレッスンを行ったりもしましたが、やはり何か常に物足りない思いを日々抱きながら生活しておりました。

活動が再開し今回このような素晴らしい演奏の機会をいただき、終演後お客様に感謝の念や「やっぱり生で聞く音はいいですね」とコメントをいただき、音楽家として演奏していく意味を見出すことができました。同じ空間の中で音楽の織りなす空気感、緊張感、躍動感などは映像だけで

は表現することのできないことですし、演奏会の場で五感をさらに研ぎ澄ませることで、演奏者だけでなくお客様もさらに楽しめるような環境を作ることができると感じました。チェコという国は音楽の街でありこれまでにたくさんの作曲家を輩出し、その中の人は素晴らしいファゴットの名曲を書き下ろしたかたがいます。その曲をこのチェコで披露できたことは何よりもかけがえのない思い出となりました。またこの地で演奏を披露すること、何か私の音楽でまたみなさんになにかを与えられるようにこれからも芸術家として精進してまいります。ありがとうございます。



ファイナルコンサート
ルドルフィヌム・スークホールにて

All Photos ©Jakub Lhota

事務局からのお知らせ

今年はコロナウィルス感染が蔓延し開催が危ぶまれる中で、国際音楽祭ヤング・プラハを無事終えることが出来ました。毎年、ヤング・プラハを支援して下さっている団体、企業、個人の皆様が、ご自身が大変な状況にも拘わらず物心両面にわたり力強い応援をして下さいました。その熱い応援がなければ今年の音楽祭は開催出来ませんでした。心から御礼申し上げます。

日本のチェコ大使館での In Tokyoコンサートは11月20日にヤング・プラハOB/OGを参集して開催致します。しかしながら日本でもコロナウィルスが拡散しつつある状況下、チェコ大使館と相談の上、いつもの規模の三密状態でのコンサートは感染リスクが高く、諦めざるを得ないとの結論に至り、代りに演奏会をVIDEOに撮影し、お送りすることに致しました。初めての試みなので上手くゆくかどうか心配ですが、Liveとならなくても少し遅れて放映が実現できるよう頑張りたいと思います。放映はYouTubeで行なう予定です。詳細が固まりましたら、ヤング・プラハのホームページに掲載致します。また、事務局にメールでお問合せ頂ければ折り返し詳細をご案内致します。是非、オンラインコンサートにご参加下さい。フレンズ会員の皆様には後日、演奏を記録したDVDをお送り致します。

ヤング・プラハ ホームページ: <http://www.youngpraha.jp/>

日本事務局 お問合せ先: office@youngpraha.jp

